【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第５部門第１区分
【発行日】平成22年2月12日(2010.2.12)

【公開番号】特開2007-170392(P2007-170392A)
【公開日】平成19年7月5日(2007.7.5)
【年通号数】公開・登録公報2007-025
【出願番号】特願2006-342783(P2006-342783)
【国際特許分類】
*Ｆ０１Ｄ　5/18　(2006.01)*
*Ｆ０１Ｄ　5/16　(2006.01)*
*Ｆ０２Ｃ　7/18　(2006.01)*
【ＦＩ】
Ｆ０１Ｄ　5/18
Ｆ０１Ｄ　5/16
Ｆ０２Ｃ　7/18　Ａ

【手続補正書】
【提出日】平成21年12月16日(2009.12.16)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００４】
従って、少なくともいくつかの公知のタービン翼では、内部に形成された翼キャビティから放出される冷却空気のフィルムにより、翼の後縁が冷却される。特に、冷却空気のフィルムは、エアフォイルの加圧側で、エアフォイルの後縁から上流に形成された複数の後縁スロットを通って放出される。特に、公知の後縁冷却スロットは一列に成形され、そこでは各々のスロットが同じ長さを有している。それにより、公知の翼においては、隣接するスロットの入口および隣接するスロットの出口が、翼の後縁に沿って実質的に半径方向に整列されている。そのようなスロットの配列は、翼の機械的および熱的要求を充足するためには充分であるが、そのようなスロットの幾何学的構成はまた、いくつかのスロットの入口付近の翼を機械的に弱くしている。例えば、動作に際して、後縁の弱められた部分は望ましからぬ振動応力を生じて、長期間には、翼の後縁内で、半径方向の亀裂および／または材料の損失の原因となることがある。さらに、翼の後縁内の薄い部分は、動作中に誘導される高い遠心応力のために、少なくとも部分的に損なわれる可能性が高くなる。
【特許文献１】米国特許第４２２９１４０号明細書